

第 3 章 訓練総評

訓練総評

1. 訓練企画・評価について

今年度の訓練における教訓事項等を踏まえ、次年度以降、より実践的かつ効果的な訓練を実施するため、訓練参加者に対し、アンケートを実施した。また、昨年度に引き続き、訓練項目ごとに評価者を配置し、一部の項目については、専門的知見を有する外部機関等の有識者に評価を依頼し、上手く実施できた点や課題について意見を得たものである。

2. 訓練評価者による評価

(1) 評価の概要

今回、一時集合場所運営訓練について内閣府から、避難所運営訓練については内閣府、日本赤十字社青森県支部及び特定非営利活動法人青森県防災士会から、避難退域時検査・簡易除染訓練については放射線計測・線量評価の専門家として弘前大学から、緊急時モニタリング訓練については原子力規制庁から、傷病者等搬送訓練については、救急・災害医療の専門家として弘前大学から、救助～救急搬送に関する知見を有する者として、青森、弘前、八戸の各消防本部及び県消防保安課の県内消防本部からの出向職員にそれぞれ協力をいただき、評価を実施した。

訓練評価者から、各訓練項目とも実施すべきことは概ねできていたとの評価を得た一方、主に手順の見直しによる効率化、情報共有・引継に関する意見等をいただいた。

<改善を要する旨の意見の主なもの>

- 一時集合場所開設・運営訓練
 - ・ 避難者に関する説明手順の見直しによる効率化
- 避難退域時検査・簡易除染訓練
 - ・ 機器の不具合に対する原因追及
 - ・ 上記に伴うプレイヤーの臨機の対応を生かす形での訓練統制
- 避難所開設・運営訓練
 - ・ 駐車場からの住民誘導方法の改善
- 臨時公衆電話等設置・運営訓練
 - ・ 通信事業者の展示を避難者住民に体験してもらえる対策の実施
- 傷病者等搬送訓練・孤立地区からのヘリコプターによる住民搬送訓練
 - ・ 傷病者の付添者に対する汚染検査の実施
 - ・ 傷病者の引継場所での傷病者情報の申し送りの確実な実施
 - ・ 引継所内での傷病者の確実な管理
- 緊急時モニタリング訓練
 - ・ 指示書説明方法の工夫による要員の理解促進
 - ・ 野外活動チームの活動情報についての館内分析要員への共有
 - ・ 試料の取扱、記録の転記、ラミスへの入力等手順の再検討

(2) 訓練項目ごとの評価

ア 一時集合場所開設・運営訓練

【良かった点】

- ・ 受付要員による検温・問診はスムーズだった。
- ・ 受付要員の感染症対策はなされていた。
- ・ バス乗車時のアルコール消毒もなされており、感染症対策もしっかりなされていた。

【改善を要する点】

- ・ 足腰の弱い避難者があることを考慮し、バスの乗車位置を近づけてはどうか。
- ・ 避難者に使用させるペンが使い回しになっていた。
- ・ 安定ヨウ素剤服用に係る説明に時間を要する人がおり、その説明に並ぶ状況が見られた。個々人に説明するのもよいが、数人まとめて説明するのもよいと感じた。
- ・ 黒板がある集会所だったので、事前の伝達事項を記載しておく等の配慮が必要（迅速性、合理性の観点からも）

イ 避難退域時検査・簡易除染訓練

【良かった点】

- ・ 総じてよく計画されており、事業者の方々は日頃からよく訓練されていると感じた。

【改善を要する点】

- ・ 前回もゲートモニタは機能していなかった。事前確認では機能していたようだが、訓練で機能しないのは何らかの理由があると思われる。その理由を明らかにして緊急時に備えていただきたい。
- ・ 一方、サーベイを担当された方々は現場対応をされているだけあって、臨機応変に対応していた。特にゲートモニタが機能しないことが分かった直後に、サーベイメータで測定をしており、私はまさにこれが訓練だと思いその点について高く評価したいと思ったが、ゲートモニタがある体で進めて欲しいとの指導が県担当者からあったことは残念。
- ・ 車両保管場所について十分なスペースがあるのか、そのような想定をされているのか知りたい。そこまで多くの車両を止めることは考えられないとのことだったが、想定を超えた場合どのように対応するのか、スペースや誘導など検討が必要。

ウ 避難行動要支援者搬送訓練

【良かった点】

- ・ 町福祉車両、福祉タクシーとも、避難行動要支援者の搭乗・降車に係る支援を的確に実施できていた。

【改善を要する点】

特になし

エ 避難所開設・運営訓練

【良かった点】

- ・ 避難者用エリアについて、テープによりテントスペースを明確にしておりスムーズな設営となるよう工夫していた。
- ・ 問診票をバス等の車両内で記入するなど、受付を円滑にする工夫がなされていた。
- ・ 要員について、適宜作業を分担し、声掛けをしながら適切に実施していた。
- ・ 要配慮者（車いす避難者、乳児連れ避難者、日本語でのコミュニケーションが難しい避難者）への対応は適切。

【改善を要する点】

- ・ 駐車場の入口で車両を一時停止させると敷地外での渋滞となる可能性があることから、誘導者の配置を検討することが望ましい。また、使用していないスペースがあったことから、有効活用し、車両は一方通行とすることが望ましい。
- ・ 要配慮者の降車場所を玄関前とし、降車後に専用場所への駐車とすることが望ましい。
- ・ バスの誘導は2名ずつが良いのでは。避難者をバスから降ろす際、2名程度でコントロールすることで、検温、受付、誘導にゆとりができると考える。
- ・ 避難者カード、問診票の車内での記載の徹底。記載漏れなどの確認は車内で実施する方がよりスムーズに行き、渋滞、混雑を緩和する。
- ・ ゲートコントロールを確実に実施し、受付に流す人数の調整徹底を。
- ・ 自家用車は1人の要員が最後まで確認誘導する方がよいと考える。
- ・ 受付場所の感染予防策としては個人防護具で対応する方がよい。物品の受け渡しが必要だが、避難者カード、問診票の受渡しで不自由さがある。
- ・ 感染症疑い者への対応～誘導は1人につき要員1名で足りると考える。
- ・ （今回は訓練統制上土足としていたが）感染予防を考えると土足厳禁。
- ・ 最後のバスが到着した際、スタッフが誰も出てこないことで、避難者がバスを降り、そのまま玄関先に集まり混雑していた。それを見た要員が対応したが人数が足りない。無線で連絡があったと思うが対応が遅かった。

オ 物資搬送・受入訓練

【良かった点】

- ・ トラックの誘導は円滑に実施できていた。

【改善を要する点】

- ・ トラック乗務員が荷下ろしをし、それを受け取った要員が1人で1個の荷物を避難所内まで運んでいたが、建物の出入りは頻繁にせず、要員が確保できるのであれば並んで手渡しした方がよい。
- ・ 建物に入る場合は手指消毒を。
- ・ 支援物資（重量:15キロ程度、大きさ:1×1×0.1m）は1人で運搬可能であるが、重量・大きさを考慮すると、安全のため2人での運搬が望ましい。

カ 臨時公衆電話等設置・運用訓練

【良かった点】

- ・ 円滑かつ適切に実施できていた。

【改善を要する点】

- ・ 訓練中も住民へ通信事業者のブースを訪れるよう案内していたが、結果として足を向けてもらうことが出来なかった。住民避難者に足を向けてもらえる方策（住民の避難所での行動計画に含めるなど）を検討する必要がある。

キ 傷病者等搬送訓練・孤立地区からのヘリコプターによる住民搬送訓練

【良かった点】

- ・ 各消防で救急車の養生はととてもきちんとできていた。同時に PPE についてもきちんとなされていた。
- ・ いろいろ制約はあるが、実動でやれたこと、経験できたことは貴重。
- ・ 拠点の設置については、全員が手順を理解し対応できていた。
- ・ 救急車の養生については、北部上北消防から説明を受けて実施したことから概ね統一できていた。
- ・ 傷病者の観察は迅速。接触時はクイックサーベイでも良いと思われる。
- ・ 傷病者の収容についても隊員間の連携がとれ、スムーズだった。
- ・ タイベック装着後、背面に大きく消防本部名と苗字（カタカナ）が記載されており、識別に有効。実現場でも効果を発揮する。

【改善を要する点】

- ・ 傷病者と付添者が救急車に乗って中継所に来たが、傷病者には汚染検査がされたが、同じところから付き添ってきた同乗者はだれが担当することになっていたのか？汚染検査もなされずいつの間にか次の搬送になっていなかったか？
- ・ 付添い（同乗者）の人の扱いが不明確、汚染の測定なしで傷病者のみの対応に終始、また、搬送を待つテントの傷病者について管理している救急隊員がいない、又は確認できない。
- ・ 傷病情報の申し送りが十分に行われなかった例が多かったように見受けられた。搬送確認書がこういった中継の場合、どの様に引き継がれるか検討されているか？
- ・ 指揮所では情報を無線で収集していたが、現場広報を含め、その内容を引継所にいる隊員に明瞭に伝えているようには見えず、引継所全体が手元にあるシナリオの現時点での進行状況を確認する訓練になっていた。
- ・ 各テントで一覧表のような傷病者の集計、管理がされておらず、結果的に除染エリアのテントで待機しなければならない傷病者が搬送待ちテントに誤って移動されることがあった。
- ・ 傷病者引継時、ストレッチャーからの移乗のみで全く情報提供が無い隊あり。可能な限り情報提供すること。
- ・ 傷病者引継時、タイベックを着用していると意思疎通が困難となるので、ボードやカードの利用があるとより確実な活動になる。

- ・ コーディネーター的救急隊を1隊配置して場の管理を実施した方が良い。救急隊同士の傷病者情報の引継ぎも皆無（傷病者情報の紙を渡すだけ、あるいは傷病者が自分で手に持っている）だった。傷病程度も緑、黄色なので、すぐ搬送に入る必要ない。
- ・ 汚染検査が終わったテントから、患者待機テントまでの傷病者の付添いにホットのテントの方がついて行ったが、それでよかったか？
- ・ 除染の第一は脱衣。シャワー除染は用意されていたが、着替えを用意する方がいい。
- ・ 中継地に医療チームの派遣を依頼してもいいと思う。
- ・ 救急車チーム、汚染検査チームに個人線量計が必要。少なくとも一台に一個。
- ・ 厳冬期に一度やってみて、施設、テント、機器が機能するか試す必要もある。その際、場所の選定も大事となる。（廃校の利用、体育館、屋根のある場所の確保など）
- ・ 各救急車が2回搬送業務を実施したことで、1回目の搬送で養生の破損、剥がれなどがあり、二回目の搬送で完全な状態でない隊も見られた。主担架の車輪接地面まで養生している隊としていない隊が見られた。
- ・ 救急車に対する養生シートの貼付けについて剥がれ等があり、工夫が必要である。
- ・ 養生について、シートが継接ぎであったため、活動中に剥がれていた。また、シートは外す際の事を意識して養生する必要がある。
- ・ 救急車の養生に関して、消防機関であれば総務省消防庁から「平成28年度救助技術の高度化検討会報告書」P3-59よりN災害時の救急活動要領が記載されているので、そちらを参考にした方が良いと思われる。
- ・ 県から貸与されている養生用シートが乳白色であったため、モニタ画面が見えなかった。隊員に確認すると実戦では切り抜いて使用することのこと。特に決まりはないとのこと。調べてみると令和4年3月一部改正された消防庁の「原子力施設等における消防活動対策マニュアル」に、その方法が記載されていた。今回初参加した消防本部もあるが、打合せの段階で同マニュアルを使って事前レクチャー及び各出動隊での基礎知識の統一を図れば準備時間の節約、同一概念での広域かつ組織的な活動が可能であったと思う。
- ・ 今回の車両養生で特に気になった点として、①壁の養生に頑丈な酢酸ビニルシートを使用し、床面に薄手のテープ付き養生シートを使用していた。作業時の効率や人の歩行により摩耗することを考えると、床面が酢酸ビニルシート、壁がテープ付き養生シートで良いのではないかと。②壁の養生から開始し最後に床面の養生を行ったため床面の養生の固定が甘くなり、ストレッチャーの出し入れの際に養生シートが動いたりめくれたりしていた。養生実施は床面から、養生解除は上方からが良い。また、バックドアの養生が不完全。隙間がないように養生を。③ストレッチャーの養生は機能を生かしたまま行うのが基本。大きめにカットした酢酸ビニルシートをストレッチャー下部でゆるめに固定するのがよい。また、傷病者固定ベルトが布製で、汚染した際の除染の手間を省くために、雨天時に使用するナイロン製の傘袋を使用すると良いと思う。余裕があれば車輪の養生も。

- ・ 次回の訓練では訓練シナリオだけでなく、上記マニュアルを必読として訓練の質を上げるよう所属の隊員には周知します。
- ・ PPE の取扱いに関連して、北部上北消防から、施設外（消防など）と施設内でマニュアルが異なると伺った。活動場所が異なるので全て統一する必要はないが、共通する部分と異なる部分を洗い出して共有しても良いかと思われる。
- ・ 隊員の膝附観察があり、万が一の汚染拡大や隊員の防護を考えた場合、膝附は禁忌事項として取り扱った方が良い。
- ・ 訓練実施方法の検討や、その訓練でどのような項目を向上させていくのかを再確認したほうが良いのではないかと感じる。
- ・ 靴を脱がせていないため、ストレッチャー操作時に靴の底が隊員に接触し汚染する可能性がある。傷病者引継時に靴底の接触が発生していた。
- ・ 自衛隊ヘリの活用は有効と思われるが、L/D ポイントへ自衛隊の無線を装備した地上隊の早期編成が必要。
- ・ 訓練進行上、仕方ない部分でもあるが、実災害を想定するならば汚染地区からの搬送なので、傷病者の扱い等については別枠で訓練してもいいのではないか。

ク 緊急時モニタリング訓練

【良かった点】

- ・ 訓練前の事故想定、進展についてパワーポイントを用い丁寧に説明を行っていた。
- ・ モニタリング本部要員が各モニタリングチームに指示書を説明する際、チーム毎に活動の内容を丁寧に説明していた。
- ・ 防護服の着用時に補助員は各チームに1人付いて適切に対応していた。若干遅れて焦り気味の要員に対しては声がけをしていた。
- ・ 出動前に屋外での作業を想定しながら手順確認していた。
- ・ 屋外の各チームとLINEを活用した情報共有を積極的に行っており、これまでの電話のやりとりに比べ円滑に進められていると感じた。
- ・ 総括連絡班のホワイトボードには屋外活動チーム毎の活動状況が記入されていて進捗管理が一目で把握できるよう工夫されていた。
- ・ 帰還時に総括連絡班から館内放送があり、どのチームが帰還する等の共有ができていた。
- ・ 出動時や帰還時の受入れについて、動線、手順等が良く練られていた。

【改善を要する点】

- ・ 指示書説明の際、最初にプロジェクタなどで指示書の内容を網羅した緊急時モニタリング計画を要員全員に共有するステップを設けると、全体の活動の中での自分たちの役割が明確になりより理解が深まると思う。
- ・ 野外チームの現在位置を本部がリアルタイムで確認できるような体制はとれないか検討して欲しい。
- ・ 屋外活動中の進捗は館内放送がなく、分析要員には屋外活動状況が共有できていないように見えた。

- 大気浮遊じん試料の前処理等で手間取っているようだった。手順を再検討し、マニュアルに反映してほしい。
- 試料の情報は、採取記録用紙とともに前処理担当に手渡され、測定用の容器蓋、分析票、分析進行管理表に転記することになっているが、転記ミス防止する手段（ダブルチェックなど）を講ずる必要がある。
- 環境試料の測定データについて総括連絡班担当者が一人で国のモニタリング情報共有システム（ラミス）に入力する作業を行っていた。入力ミス防止する手段や環境試料測定分析結果の妥当性確認プロセスを決定しておく必要がある。

3. 訓練参加者アンケートまとめ

訓練参加者に対し、以下の内容でアンケートを実施した。

<p style="text-align: right;">別紙</p> <p>令和4年度青森県原子力防災訓練（東通原子力発電所対象）に係るアンケート</p> <p style="text-align: center;">機関名： _____</p> <p>各質問項目について、該当する回答に○をお付けください。</p> <p>問1 過去に原子力防災訓練に参加されたことがありますか。</p> <p>1. ある 2. ない</p> <p>問2 今回の訓練の参加項目について教えてください。</p> <p>1. 一時集会所開設・運営訓練 2. 避難退域時検査・簡易除染訓練 3. 交通規制・警戒警備訓練 4. 避難所開設・運営訓練 5. 臨時公衆電話等設置訓練 6. 物資搬送・受入訓練 7. 避難行動要支援者搬送訓練 8. 傷病者等搬送訓練 9. 孤立地区からのヘリコプターによる住民搬送訓練 10. 緊急時モニタリング訓練 11. その他（訓練項目を記入してください） （ _____ ）</p> <p>12. 訓練の運営を行った。 ※「12. 訓練の運営を行った」と回答した方は、問5にお進みください。</p> <p>問3 今回の訓練における御自身の役割を理解し、行動することができましたか。</p> <p>1. 良くできた。 2. 概ねできた。 3. あまりできなかった。 4. 全くできなかった。</p> <p style="text-align: center;">1</p>	<p>問4（問3で3. あまりできなかった、4. 全くできなかったと回答された方について）できなかったと思う理由は何ですか。また、役割を実施するにあたってどうすべきであったとお考えですか。御意見をお書きください。（複数回答可）</p> <p>1. 訓練における現在の状況（御自身、周囲を含め）がよくわからなかった。 2. 原子力災害時における原子力防災体制がよくわからなかった。 3. 原子力に関する知識に乏しかった。 4. 自分自身の業務内容や役割が不明確だった。 5. 一定時間内に実施すべきことが多すぎた。 6. その他（ _____ ） 意見等について _____</p> <p>問5 今回の訓練が、今後、関係者の防災意識の醸成につながると思えますか。</p> <p>1. つながると思う。 } 問7へ 2. 概ねつなげると思う。 } 3. あまりつながらないと思う。 } 問6へ 4. つながらないと思う。 }</p> <p>問6（問5で3. あまりつながらないと思う、4. つながらないと思う、と回答された方について）関係者の防災意識を醸成するにあたり、今後、どのような取組、事項が必要とお考えでしょうか。御自由に御意見をお書きください。</p> <p>意見等について _____</p> <p>問7 一時集会所開設・運営訓練及び避難所開設・運営訓練に参加された方にお伺いします。</p> <p>(1) 一時集会所開設・運営訓練及び避難所開設・運営訓練では、感染症対策を想定して実施しましたが、訓練で実施した対策は十分だと思えますか。</p> <p>○ 実施した対策の主なもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入口が狭いことから、バスや自家用車の避難者について、受付担当、駐車場担当とバス添乗員とが調整を実施し、一度に多数が降車し、避難所 <p style="text-align: center;">2</p>
<p>入口に向かないようにする。（避難所）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受付窓口と検温・問診窓口とをそれぞれ別に設置することで受付への集中を避ける。（一時集会所、避難所） ・ 受付付近の混雑を緩和するため、問診票をあらかじめ配布し、記入したものを持参してもらう。（避難所） ・ 感染症疑い者・濃厚接触者について、一般避難者と隔離したエリアを設置（一時集会所、避難所） ・ トイレも一般避難者と別の場所を指定することで、一般避難者と感染症疑い者・濃厚接触者との動線を切り離す。（避難所） <p>1. 十分だと思う 2. 不十分だと思う</p> <p>(2) (1)で2. 不十分だと思うと回答した方について) どのような点が不十分でしたか。また、その場合実施した方がよい対策はありますか。</p> <p>不十分だと思う点、実施すべき対策等 _____</p> <p>(3) 今回避難所では要配慮者（外国籍の住民対応を含む）への対応として以下の事項を実施しましたが、訓練で実施した対策は十分でしたか。</p> <p>○ 実施した対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受付、居室、トイレなど、館内における多言語での案内表示 ・ 乳児連れの避難者について、授乳等の多目的スペースを配置した別室を用意し、別室対応の要員を配置 ・ 外国籍住民用に別室を用意 <p>1. 十分だと思う 2. 不十分だと思う</p> <p>(4) (3)で2. 不十分だと思うと回答した方について) どのような点が不十分でしたか。また、その場合実施した方がよい対策はありますか。</p> <p>不十分だと思う点、実施すべき対策等 _____</p> <p style="text-align: center;">3</p>	<p>(5) 参加された住民の方から、訓練に関する御指摘や御要望等を聞いてございましたら、お書きください。</p> <p>_____</p> <p>問8 交通規制・警戒警備訓練に参加された方にお伺いします。</p> <p>(1) 今回、避難退域時検査場所（十ヶ浦海水浴場駐車場）内での車両滞留による、国道279号の渋滞対策として、以下の対策を実施しました。訓練で実施した対策は十分だと思えますか。</p> <p>○ 実施した対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 避難車両の進行方向左側に位置する旧木明小学校に、一時待機場所を設定し普通車を流入、待機させる。 ・ 避難退域時検査会場内の要員、検査場所前の要員、交通誘導を実施する。警察官と無線交信を行い、普通車の流れを制御する。 ・ 警察官が対向車線の交通を制御しながら右折進入を誘導する。 <p>1. 十分だと思う 2. 不十分だと思う</p> <p>(2) (1)で2. 不十分だと思うと回答した方について) どのような点が不十分でしたか。また、その場合実施した方がよい対策はありますか。</p> <p>不十分だと思う点、実施すべき対策等 _____</p> <p>問9 今回の訓練に参加しての、御意見、要望等を御自由にお書きください。また、今後実施して欲しい訓練、原子力防災に関し必要と考えられる資機材、関係資料等があれば、お書きください。</p> <p>(1) 訓練想定、会場の設定、訓練実施日、訓練時間、視察・参観、その他訓練運営等について _____</p> <p style="text-align: center;">4</p>

(2) 原子力防災訓練に対する意見・要望・今後希望する訓練等について

アンケートに御協力いただきましてありがとうございました。

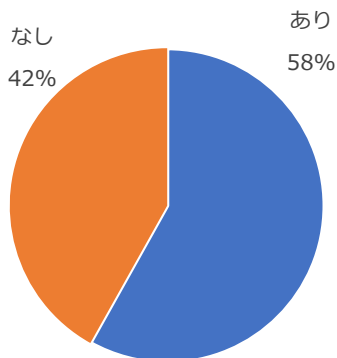
(1) 全般（問1～問6）

各訓練共通の項目として、過去の原子力防災訓練参加経験の有無、自身の役割を理解し、行動できたか否か、及び訓練実施が関係者の防災意識醸成に寄与するか否かを確認した。

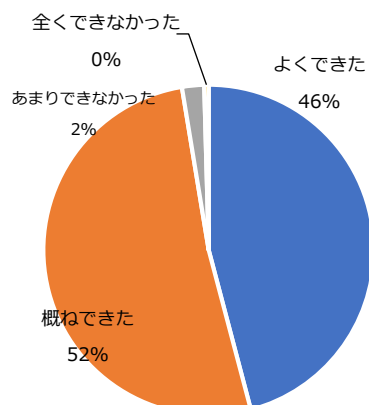
6割の参加者は過去に参加経験があり、ほぼ全ての参加者が、訓練における自分の役割を理解し、行動することができたとしているが、資機材が届かないトラブルがあり、スムーズに実施できなかつたとの意見があった。

また、同様にほぼ全ての参加者が防災意識向上につながる、または概ねつながるとしている。

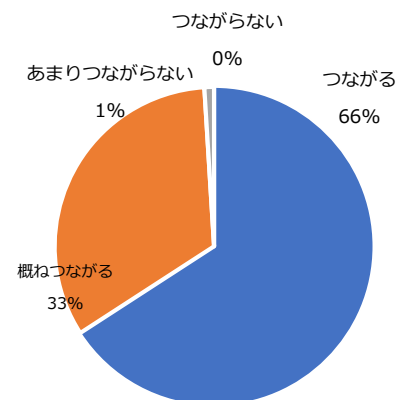
過去の訓練参加経験



役割を理解し行動できたか



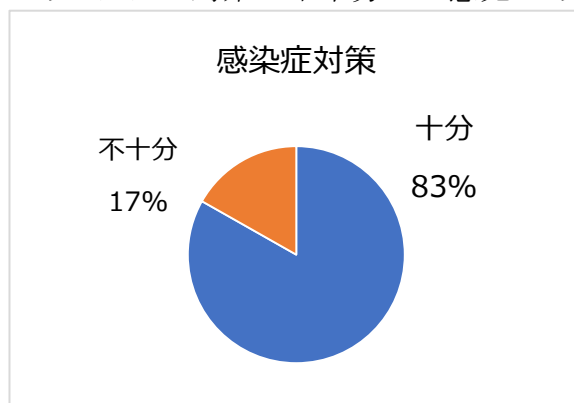
防災意識醸成への寄与



(2) 一時集合場所開設・運営訓練及び避難所開設・運営訓練について

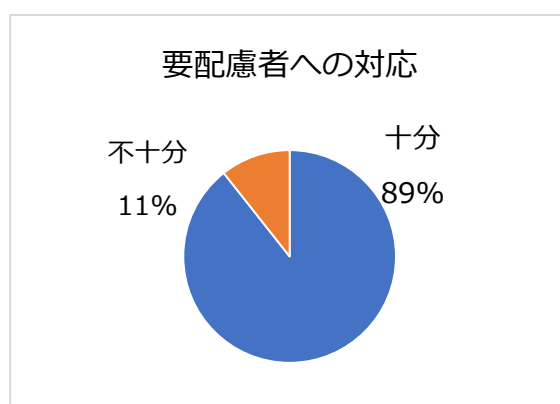
ア 新型コロナウイルス等の感染症対策（問7（1）、（2））

アンケートによると、約8割の参加者は対策がされていると評価し、今後の訓練にも生かせるとの意見であったが、入口に多くの避難者が流れ、検温・問診エリアが混雑する状況があったため対策が不十分との意見があった。



イ 要配慮者への対応について（問7（3）、（4））

避難所開設・運営訓練参加者に意見を求めたところ、約9割の参加者からは対応は十分との評価を得た。一方で、多言語の案内表示が目立たずより注意を引くような表示にすべき、との意見や、実際に日本語でのコミュニケーションが難しい方に意見をいただいているかどうか、との意見があった。

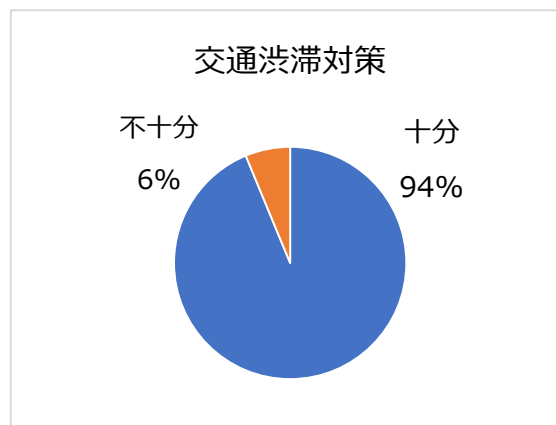


ウ その他意見等（問7（5））

段ボールベッドの組立体験を含め、訓練に参加できてよかった、との意見や、訓練当日が寒かったこともあり、避難所における防寒対策の必要性についての意見があった。

(3) 避難退域時検査に係る道路の渋滞対策（問8）

交通規制・警戒警備訓練の参加者に意見を求めたところ、約9割の参加者から対策は十分との評価を得たが、避難退域時検査場所出口側への車両誤進入防止、また、出口側の見通しが悪かったことから出口側にも人員を配置して欲しい、等の意見があった。



(4) 訓練項目別の意見

ア 一時集合場所開設・運営訓練

- ・ 屋外での実施事項は天候に左右される可能性があるので柔軟な対応が求められる。
- ・ 避難住民役として参加し、テレビモニタをみるよう言われたが、運転席は真横になるため問題ないが、助手席側がモニタをみるときに大変であった。助手側にモニタがあればよいと思った。
- ・ 短い時間ながらも、避難者をバスに搭乗させる際の受付の流れを把握することができて非常に有意義でした。
- ・ 避難住民役に高齢者が多く、ヨウ素剤の問診票や避難者カードの記載支援が大変だった。

イ 交通規制・警戒警備訓練

- ・ 今後も同様の訓練を実施していただきたい。
- ・ 実際に地震災害が発生した際は、大規模停電になるおそれもあることから、交通規制・警戒警備訓練の想定に、信号機が滅灯した場合の対応を加えてみるのも効果的かと思います（人員確保や訓練計画策定に係る負担が増えますが）。

ウ 避難退城時検査・簡易除染訓練

- ・ 今回程度の軽すぎず重すぎない内容であれば訓練への参加が求めやすい。
- ・ 会場について十分なスペースはありましたが、天候によっては内陸側が良いと思います。
- ・ 今回の訓練場所は、風が強くテント類が動いてしまいました。固定用の錘をもう少し増やすもしくは固定用のロープなどがあった方がよいと思いました。
- ・ （住民確認検査で）スクリーニングを待っている間寒かった。
- ・ 限られた場所で実用に見合った場所での訓練は効果的だとは思いますが、海水浴場駐車場では風が非常に強く大変だった。あくまでも訓練として割り切るならば、時期を調整した方がよいと思う。
- ・ 訓練内容についてももう少し事前に情報伝達をしてほしかった。（不明点が多く今回の訓練を活かしきれていなかったように思われる。）
- ・ 資機材がラックに積まれていましたが、結果として設置しないものがあったのでどうしたらよいか迷いました。

- ・ (避難退域時検査場所に関して) 手洗い場所は必要
- ・ 「汚染」や「除染」など原子力用語は、なじみのない一般の方にとってみれば大変な不安を与える表現だと思っている。こういう場面では原子力用語に固執しない方が良いと感じました。
- ・ 冬季のことも考えて風雨対策も講じていただければ良いと思います。
- ・ 今回初めて訓練に参加したが、避難退域時検査の際どのタイミングで簡易白衣に着替えるのかわからなかった。集合場所で今回使うものを受理した際、そこにいる人たちに聞いても聞いた人は全員わかっておらず、どこかのタイミングで着替えるように指示があるものと思い、そのまま避難退域時検査場所へ行くこととなった。結果的にどこのタイミングでも着替えるような指示はなく、そのままの服装で避難退域時検査場所へ移動したが、誰からも白衣についてコメントはなく終わってしまった。

エ 避難行動要支援者搬送訓練

- ・ 町と県の合同訓練であったので、実際の災害を想定できて良かったと思う。
- ・ 実際の要支援者に協力を依頼して、在宅からの避難を想定した訓練ができればよりよいと思う。

オ 避難所開設・運営訓練

- ・ 実際にはほとんどの方が自家用車で避難することになると思うが、多数の自家用車避難者の避難所での受け入れについて訓練・確認することも必要ではないかと考えます。
 - ・ 訓練に参加した職員についても、担当した部分しかわからないので今後も継続し、いろんな役割を経験できるよう配置していただければと思います。
 - ・ 当日渡された別資料がある一方で、現場で訓練内容を質問できる・説明する県職員の方が1人しかいなかった。参加側にとっては、担当者を増やして訓練を分担して対応して頂いた方がよい。
 - ・ 近年のスマートフォンの普及を踏まえ、住民に対して避難に必要となる情報等を提供できる避難支援アプリなどの整備が必要であると考えます。
 - ・ 住民避難の円滑な実施のため、関係市町村における状況把握と調整等（避難地区、避難対象者数、避難手段など）を行えるよう、統合原子力防災ネットワーク上に、統一かつ統合した避難支援システムを構築するなどの対策が必要であると考えます。
 - ・ 自分たちの自治会単位での訓練もやっておかなければいけないと感じた。
 - ・ 初めて参加したが、いい経験になった。
 - ・ 実際の移動・配置に要する時間の目安を計るため、参集・配置の訓練を行ってはどうか。
 - ・ 実際に災害が起きたときは事前準備などが困難なのでそれを想定してのことかもしれないが、もう少し事前に業務分担や内容を教えていただければと思います。
 - ・ 避難所会場で、他の会場の訓練状況等が見られると良いと思います。
- ※住民の方の待機時間が長かったため。

※自分が参加した訓練以外でどのような訓練が行われているか、知らない方もいたため。

- ・ 他市町村との訓練を行えたことで、各市町村の意見を聞けたり、参考になる部分が多かった。今後においても訓練を引き続き行っていただきたい。
- ・ 他の訓練にも言えることですが、将来的にもし新型コロナウイルス感染症が5類相当に変更された場合、今回のような各種の感染症対策を行って訓練もしくは実災害の対応を行うべきなのか、悩ましいところかと思えます（コロナ禍前はここまでの対策は行っていなかったでしょうし）。
- ・ 災害に関する知識の習熟や段ボールベッドの組み立てなどを体験できたのがよかった。
- ・ 町から参加可能な職員をリストアップしたところ（町では予備のスタッフを数名確保する予定であったが）すべて係員として従事を割り当てられた。新型コロナの中で不測の事態もあるので、予備のスタッフを確保しておくことも計画したほうが良いと思う。

※実際に当町で2名当日リタイヤした

- ・ 役割ごとの配置人数の再確認を行った方が良いと思う。
- ・ （避難者が）持ってくるはずの用紙を持っていない、役割の書かれたベスト等を着用していないなど、情報が統一されていないと思われる部分があったため、県及び市町村間での事前の確認が訓練の質の向上につながるのではないかと感じた。
- ・ 外国籍の人には、さまざまな対応が必要となるため、受付窓口を別に設けた方が良いのではないかと感じた。
- ・ 現場の係の判断で対応する場面があり、より実践に近い形での訓練ができたことは大変よかった。実際の災害発生時は兼務が当たり前であり、今後も研修や訓練等により事前想定を選択肢を増やしていきたい。

カ 物資搬送・受入訓練

特になし

キ 臨時公衆電話等設置・運用訓練

- ・ 移動基地局車の設営、Wi-Fi 機器の展示、充電サービス設営を行ったが住民の動線上に設営場所がなかったため住民に体験いただけなかった。

ク 傷病者等搬送訓練・孤立地区からのヘリコプターによる住民搬送訓練

- ・ 孤立地域からのヘリコプターによる住民搬送訓練に当たったが、尻屋岬港がものすごく風が強く、自衛隊ヘリの離着陸が心配だったが、無事終えることができた。役場に戻ったらまったく穏やかな状況だったので、本部と現地の状況は全く違うということを想定しなければならないと感じた。
- ・ 想定を企画する消防本部は、他の参加消防本部に遠慮することなく内容をもっと高度にしても良い。
- ・ 県内外からの参観者が来るので、見る側からも進行や、行っていることが分かりやすい様な工夫を重ねていければいいと思う。

- ・ 本来有事の際は県内相互応援協定に基づき、全消防本部が参集されると思うが、実際に参加している消防本部は6割程度。今後は実災害を更に考慮して、全消防本部参加で行いたい。
- ・ 各消防本部及び県担当者とは事前に連絡を取り合い、活動概要の意思疎通が出来ていたが、東通原発職員（放管役、傷病者役）が訓練概要を把握していなかったのか、仮想東通原子力発電所（公園管理棟）におらず救急車待機場所にいたため、原子力施設から救急隊への引継訓練として成立しなかった。
- ・ 原子力施設から救急隊への引継が下北消防の重要項目となるため、東通原子力発電所から救急隊への引継要領の再確認を含め、各消防本部だけでなく、各原子力施設と連携した訓練になればさらに原子力災害に対する対応力が向上すると考えます。
- ・ 『一時集合場所への移動中に負傷した避難者の搬送訓練』の際、救急隊は汚染箇所を確認するため、避難者接触時にサーベイメータを使用できれば、より一層現実的な訓練に繋がると感じた。
- ・ 今回訓練に初めて参加して、救急車の養生の方法や搬送までの流れを確認できてとても良い経験ができました。今後、災害が発生した際には今回の訓練を活かして活動したいと思います。
- ・ 今回の訓練で感じたことは、事前に資料で内容は把握していましたが、資料での訓練の流れと当日の動きに異なるところがあり少し戸惑いを感じました。
- ・ 引継所入口が分かりにくかった為、入口に誘導員の配置と救急隊の待機場所に連絡員を配置することで訓練がスムーズに進むのではないかと思います。

ケ 緊急時モニタリング訓練

【良かった点】

- ・ 他チームの渋滞情報をLINEで入手できたので、それをもとに迂回路を選択することができた。
- ・ 車内へ汚染を持ち込まない（ドアの開閉時間を減らす等）意識をもって作業することができた。
- ・ 全体的にモニタリングチーム内で声がけしながら短時間で作業することができた。
- ・ 今年度から、所内LANによるExcelの共有機能を利用した結果、前処理室・測定室・総括連絡班居室の3か所間の連絡に割くリソースが削減され有用であった。

【改善を要する点】

- ・ 個人被ばく管理報告書は手入力を想定したものであるため、エクセル入力しやすい様式にした方がよい。
- ・ 採取地点に到着してから採取の準備を行ったため、線量が高い地域に長時間滞在してしまった。出動前や車内で準備してから作業に取りかかるべきであった。
- ・ サーベイ用の道具類を1つのコンテナにまとめて運んだため、道具使用時に探し出すのが容易でない場合があった。出動前に採取用の道具箱を1つの袋にまとめておくなど、工夫が必要だと感じた。
- ・ フェンス内で土壌を採取する間、防護服がフェンスに触れるなど、汚染に対す

る意識が甘かった。フェンスに触れないように採取しやすい場所に移動してはどうか。

- ・ 帰還してから汚染検査するまでの作業の流れを把握していなかったし、それを確認する手段もなかったので、サーベイチームに一連のマニュアルを携帯させておいた方がよい。
- ・ 車両汚染検査、身体汚染検査それぞれが混みあっており、待機時間が長くなっていった。訓練全体のボトルネックになっており、効率的な運用方法が望まれる。
- ・ 受入試料の情報と採取記録票の情報を確認するほか、前処理から測定に回す試料と分析記録票の記載内容をしっかり確認したほうがよい。
- ・ 試料（水、土壌、ろ紙等）によって処理の仕方が異なるので、それぞれの流れがわかる写真などが見えるとあれば不慣れでもイメージしやすい。
- ・ 分析記録票と進捗状況を PC に別々に入力するため作業が煩雑である。このため、採取記録票から分析結果の報告までデータを一元化できればよい。
- ・ 分析結果報告について、印刷物と PDF ファイルの両方を出力して持っていくのが煩雑であり、どちらかにした方がよい。
- ・ 検出器ごとに測定試料種を決めておいたほうが間違いが少ない。
- ・ 測定試料や分析記録票に記入する情報と測定装置に入力する情報は整合性があるべき。
- ・ 訓練運営において参加者の安全確保は非常に重要であるが、身体汚染検査において渋滞が生じたため、室外に滞留する時間が長かった。天候によっては風邪をひきかねないところであり、訓練統制側で事前に対応を検討すべきであった。
- ・ 緊急時モニタリングについては資機材取扱訓練と緊急時モニタリング訓練ぐらいいしか訓練する機会がない。このため、簡単なものでもよいと思うので要素訓練の実施を検討してはどうか。
- ・ 大気（ろ紙、カートリッジ）の採取がなされなかった。測定装置や採取装置には慣れが必要とのことだが、大気は OIL の判断には用いないものの被ばく評価上重要な試料であり、重点を置いてほしい。

（5）訓練全般についての意見・要望等

ア 想定、実施日等運営関係

- ・ 風が強く寒い時期での訓練だったが、天気がよかったので無事に訓練を終えることができてよかった。
- ・ 毎年同じ人が参加するので、高齢者だけでなく、若い人が積極的に参加できるような日程・内容にしてほしい。
- ・ 多くの住民に参加していただくために、休祭日で実施すべき。
- ・ 今回は平日（木曜日）に行われましたが、土曜日など休日に実施すれば多くの住民が参加でき、原子力防災に対する意識も高まるのではないのでしょうか。
- ・ 風が強く寒い時期での訓練だったが、天気がよかったので無事に訓練を終えることができてよかったと思う。屋外での訓練なので天候状況に左右されることを考えて訓練場所を設置することが求められると思う。

- ・ 台本にないようなこと（原子力災害が起こった後に再度地震が発生したり、ミサイル発射情報、警報が発生したときなど）が起こったときに各自即興で対応する訓練するのも行うべき。
- ・ 県・村をはじめとする関係機関内での事前調整が十分に行われており、スムーズな訓練が実施出来た。
- ・ 野外での訓練も含む場合、もう少し温かい時期での実施がよいのではないか。（住民の方に寒い中での長時間の待機や移動を強いることになってしまうため）
- ・ 厳冬期や夜間の訓練も必要。
- ・ 詳細設定することにより、万が一のことが起こった際に対応できる訓練になると思うため、今後はそのような点も視野に入れて訓練の設定をしていただきたい。
- ・ 参加した訓練の対策は良いと思いますので、各班の連携を確認するため、訓練を継続的に実施する必要があると思います。
- ・ （傷病者等搬送訓練について）本来は原子力事業者が除染を行うが、NBC災害では消防も除染を行う可能性が高い。参加者及び消防参観者の学習の幅を広げるため、本旨から少し外れるが、除染のところを取り入れて欲しい。

イ 要望、今後の希望

- ・ 訓練は各地、また目的に応じてどのような事故フェーズでの活動を想定したかが異なってくるのは必然だと思う。一方で、それぞれの活動に応じた、防災業務従事者の服装、防護装備が適切であったかは検証が必要と考える。
- ・ 役場職員だけでなく、自衛隊、消防、警察などと連携した形での訓練も必要と考える。身近にある自衛隊、消防、警察などは原子力災害が発生した際にどのような役割や動きをするのかよくわからないので。
- ・ 広報訓練に参加した消防団員からも住民防護措置訓練（バスによる避難）に参加したいとの意見があった。
- ・ 原子力災害の程度や規模によっては、放射能汚染と感染症（特に現在のコロナのような）のどちらが即座の命の危機に直結するのかわかるという判断基準も必要になってくるのではないかと思います（もうあるのであればすいません）。一刻も早く避難するのが先か、感染症対策を行って落ち着いて避難するのが先か、そういったところの判断、時間的猶予があるときとない時の対策の違いというのも今後の課題となってくるのかなと思います。その辺については今後原子力の専門家と感染症対策専門家の議論、検討が必要ではないでしょうか。
- ・ いずれにしても、訓練の企画から準備、相当なご苦勞だったかと思います。大変意義のある訓練だったかと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。
- ・ （傷病者等搬送訓練について）通常災害と同じレベルの内容だと対応可能だが、原子力災害は各消防本部とも学習が必要なのでその場を提供して欲しい。
- ・ 横浜町はバスによる集団避難ということになっているが、住む地域や事態の状況によっては自家用車で自主避難をする住民が少なからずいると思う。
- ・ 原子力施設に囲まれている本市においては、万一の事態に備えて訓練を積む機会は必要であるため、今後もこういった訓練があれば様々な部署で参加できれば

と考えています。

- ・ オフサイトセンターと自治体災害対策本部設置が連携した訓練を実施すべき。
- ・ 近年、EMC 活動訓練、緊急時モニタリング訓練、原子力災害現地対策本部図上演習、原子力防災図上演習が別日に実施されているが、職員の習熟度合いを踏まえ、数年後にはそれら訓練・演習を【同日に】実施し、人の割り当てが十分かどうか、組織間（ERC、OFC、自治体）でうまく連携が取れるかどうかを確認すべきだと思う。

